



1月26日は文化財防火デー

「文化財防火デー」とは

文化財防火デーの制定は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいて、翌昭和25年に文化財保護の統括的法律として文化財保護法が制定されました。その後、昭和30年に現在の文化庁と消防庁が1月26日を「文化財防火デー」と定め、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、全国的に文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護に関する意識の高揚を図っています。

※上島町内に建立されている定光寺観音堂（弓削）と祥雲寺観音堂（岩城）が、重要文化財として国より指定されています。

令和4年度全国統一防火標語

「お出かけは マスク戸締り 火の用心」

◆上島町消防本部では、文化財防火デーに、消防設備の状況や防火体制の確認を行い、防火意識の高揚を図っています。今後も先人たちが残した貴重な文化財を火災などの災害から守り、未来に残していくため、重要文化財の火災予防を推進していきます。



祥雲寺観音堂（岩城西部地区）

祥雲寺観音堂

1431年に建立された観音堂であり、昭和25年に国の重要文化財として認定されました。



定光寺観音堂（弓削土生地区）

定光寺観音堂

天井板に1463年の墨書があり、これが建立の年とされ、昭和52年に国の重要文化財として認定されました。

令和5年 消防出初式のお知らせ

- 【日 時】 令和5年1月29日（日） 10時 開式
※雨天の場合は、コロナ感染症対策のため室内では実施せず中止します。
- 【場 所】 弓削小学校グラウンド
- 【内 容】 小型ポンプ操法・ポンプ車操法・分列行進など消防団員が日頃訓練した成果の披露や、永年の活動に対する表彰式が実施されます。見学は自由となっていますので、お気軽にご来場ください。



▲分列行進の様子



▲小型ポンプ操法の様子

令和4年11月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R4累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	21	7	9	3	0	40	397

（令和4年11月30日現在）

上島町消防本部・消防署
消防防災課

☎77-4118
☎77-3166

窒息事故を防ごう

この時期になると、餅を食べる機会が多くなり、全国的に餅を喉に詰まらせる事故が増えてきます。特に高齢者による窒息事故が多く発生しており注意が必要になってきます。

【窒息の予防】

- ・一口の量は無理なく食べられる量にする。
- ・しっかり嚥んで唾液とよく混ぜ合わせてから飲み込む。
- ・食べることに集中する。
- ・飲み込んでからおしゃべりをする。

【窒息の症状と徴候】

- 完全に窒息していない場合 窒息を起こすと、吸気時の「ヒーヒー」という高調性の喘鳴を呈することがあります。
- 完全に閉塞している場合 音は静かになる。唇や皮膚のチアノーゼは重要な徴候だが、末期徴候です。

【もし喉に「餅を」を詰まらせたら】

- ・背部叩打法を実施 ※手の平の付け根で、背中中央部（肩甲骨の中心）を強く叩き、はき出させる方法



【意識がある場合】

胸か下あごを支えて、うつむかせてから背部叩打法をおこなう。



【意識がない場合】

119番通報した後、横向けにして背部叩打法をおこなう。



落葉果樹は、カンキツ類に比べ太陽光の要求度が高く、日陰になると枝枯れや

1 基本樹形

カキやモモなどの落葉果樹は、厳寒期の休眠期が剪定時期となります。早春に開花する梅は例外として2月ごろから樹液の流動が始まるので、落葉後から2月初旬ごろまでが剪定の適期です。落葉しているので枝葉が伸びた状態をイメージし、結果習性を考慮して樹勢の維持と安定生産のため剪定を行います。樹種により違いはありますが、今回は大まかな剪定方法と注意点について解説します。

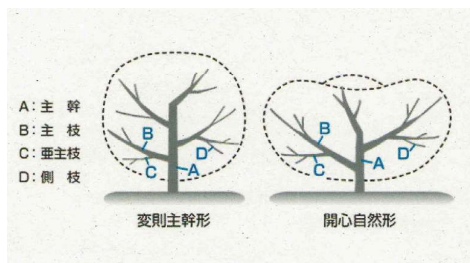


図1 立ち木樹の基本樹形

樹勢の低下を招きます。枝の交差や込み合わないよう骨格（主枝）を作り、そこから果実のなる枝（垂主枝、側枝）を配置します（図1参照）。立ち木とツル性の樹種の違いはありますが、立ち木では、主枝を異なる位置から3本程度立たせます。主枝から横枝となる垂主枝を2〜3本配置し、頭でつかちにならないように主枝の先端に向かって垂主枝の長さを短くしていき光線が樹内部に届くように樹形を整えます。ツル性のブドウやキウイは棚栽培が一般的で、主枝から垂主枝を作りそこから側枝を

2 結果習性と整枝

着花は、前年に発生した枝に花が付きますが、樹種により花芽のつき方が異なります（表参照）。カキやクリなどは、前年に未着果の側枝（母枝）から発芽した枝に花が付きます。従って枝が伸びる空間を十分にとらなければ枝が込み合います。充実した母枝（長すぎず短すぎず）を確保することがポイントです。注意点として母枝の枝先は切ってはいけません（枝先刈り）。先端付近の芽に花芽があるためで、特にカキの枝先刈りは厳禁です。また、主枝や垂主枝から結果枝が伸びすぎる傾向があり、枝が下垂し始めると樹勢が弱

配置します。ツル性の果樹は、枝を誘引して棚面に配置しますが、春以降に出てくる枝に花が付くので、枝が伸びる間隔を十分にとることが重要です。棚面に主枝を一文字やエックス字などに作ると側枝の配置が容易になります。

表 落葉果樹類の開花習性

着花習性	樹 種
春に伸びた枝に花を付ける樹種	カキ、クリ、ブドウ、キウイフルーツなど
枝に花芽と葉芽がある樹種	モモ、スモモ、ウメなど

るので、時々、主枝や垂主枝に近い枝まで切り戻すことが必要です。モモやウメなどは、側枝（母枝）に花になる芽と葉になる芽が混在しているので、前年の枝に花が着きます。徒長枝など強勢な枝には花芽が少ないため、中庸な枝を結果枝として利用します。間隔をとって結果枝を配置します。枝先刈りは軽く行いましょう。ウメは徒長枝が良く出ます。強勢枝は切除しますが、他の枝に邪魔にならない徒長枝は先刈りをする。翌年に短い結果枝がたくさん付き、予備枝として利用できます。

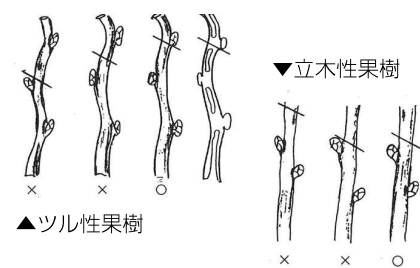


図2 側枝の切る位置

3 その他

主枝や垂主枝の幹上部から発生する勢いの強い枝は日陰を作る原因になるので剪定時に除去します。幹の横や下から出る中庸な枝を利用します。また、落葉果樹は、垂主枝の途中から強勢な枝が出るとその先端が弱る「負け枝」という現象が見られます。ツル性の果樹でよく見られるので、枝の先端を切り返しておくか、その強勢枝を枝の先端に更新するのむひとつの方法です。樹形にこだわらず、結果習性を考えて枝を切ってみるのから始めてみてください。